

早くわかれば怖くない! 大腸がん検診



問い合わせ 社会健康課 ☎2153

10月に開催した「大竹ふれあい健康・福祉まつり」での健康づくり公開座談会の内容を、ゾウのしんちゃんが少しばかり伝えちゃうゾウ。

Q 大腸がん検診ってどのようにするの?

A 市が実施している大腸がん検診は、「便潜血検査（2日法）」だゾウ。受診できる対象は、40歳以上の市民だゾウ。



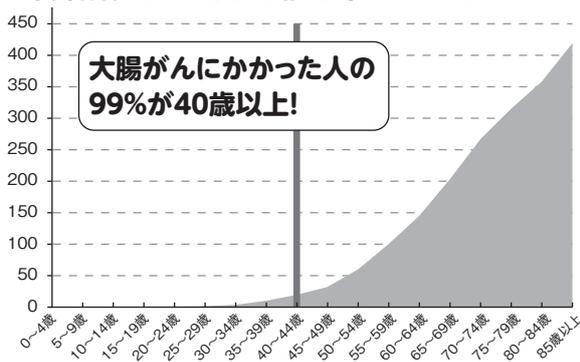
便を少量調べるだけなので、誰でも簡単にできる検査だゾウ。でも、平成24年度の受診率は全国で18・7%、広島県は19・1%、大竹市では15・8%になっているゾウ。簡単な検査なのに受診する人が少ないなんてもったいないんだゾウ。

そこで、市では市民の皆さんが大腸がん検診を受けやすいように自己負担額を「無料」としたんだゾウ!

Q 大腸がんになりやすい人は?

A 年齢で言えば、大腸がんにかかった人の99%は40歳以上の人なんだゾウ。年齢を重ねれば重ねるほど大腸がんになる人は多くなるんだゾウ。

年齢階級別大腸がん罹患率（人口10万人対）



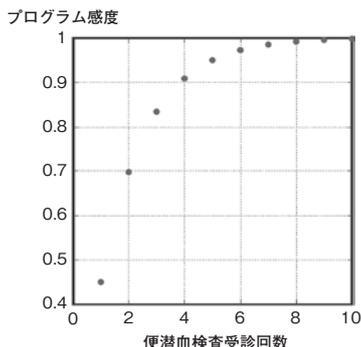
また、海外の報告では家族（親や兄弟姉妹）に大腸がんになった人がいれば、大腸がんにかかる危険性が2〜3倍になるとも言われているゾウ。



大腸がん検診の流れ



大腸がんは、がんができてから無症状期間が5年から7年あると言われているゾウ。便潜血検査の大腸がんに対する感度は45%ぐらいなので、1回の結果が陰性だったからと安心せず、毎年受診することが大事なんだゾウ。下のグラフのように5年間続けて便潜血検査をすれば95%まで感度が上がるので早期発見できるんだゾウ。



教訓 1
自分は大丈夫と考えるのはもったいない!

教訓 2
便を毎年調べるだけで、大腸がんが発見できるのに、受診しないのはもったいない!

教訓 3
便潜血が陽性なのは、大腸がんが早期発見できるチャンスなのに精密検査（大腸内視鏡検査）を受けないのはもったいない!